

the20th.

Hokkaido Student's Design Competition

一般社団法人 サッポログラフィックス杯
第20回 北海道学生デザインコンクール

北海道立札幌高等技術専門学院 作品集

全 体 講 評

今回のテーマの核心は、デジタル技術が生み出す複雑で時として見えにくい人と人との繋がりを表現することです。デジタルな繋がりが私たちの日常生活で避けられないものとなっている今、こうした繋がりが私たちの相互理解や関係にどのような影響を与えているのかを考えることが重要です。

歴史的に見ても、人間のコミュニケーションはより便利で簡単な方法へと発展を遂げてきましたが、直接的な接触が少なくなってきたことも事実です。例えば、集合住宅という形式は人々を物理的には近づける一方で、距離感のある関係を促進しているとも言えます。電話やメール、SNSといったコミュニケーションツールも、利便性を増すと同時に、表面的なコミュニケーションが主流となっている現状です。

こうしたデジタルな世界が果たして良いものなのか悪いものなのか、その答えは私自身にもわかりません。しかし、私たちが「当たり前」と感じている現状に疑問を投げかけることで、より深い人間的な繋がりを追求する新たなコミュニケーションの形が見えてくるのではないのでしょうか。

今回の課題では、単にデジタル社会の現状を認識するだけでなく、それを視覚的に表現し、鑑賞者に自身のデジタルな繋がりについて考えさせる作品を作り出すことが求められていました。この制作を通じて、皆さんがデジタル社会の複雑さについて深く考え、デジタルと人間性のバランスをとる未来のコミュニケーションについての発想を広げられる機会となれればと考えています。

北海道立札幌高等技術専門学院

長竹 宗一さん

講 評

ものすごくシュールな絵面だと思いつつ、実際には言い切れないリアルな家族の姿が表現されており、インパクトの大きな作品として仕上がっています。

絵柄が「いらすとや」の制作しているキャラクターと似すぎているように見えるため、著作権などの観点から不安があります。長竹さんの個性をもっと出していきましょう。



北海道立札幌高等技術専門学院

一安 咲桜さん

講 評

会話中にも関わらずスマートフォンを見ている。よくあるシチュエーションですね。あくまで個人的な感覚ではありますが、気の知れた人ほどやってしまっているような気がします。

この作品では、スマートフォンに禁止事項が表示されているため、リアルなコミュニケーションの現場であることが少し分かりにくく、本来伝えなかった内容が弱く見えるところが勿体ないと感じました。



北海道立札幌高等技術専門学院

上城 翔さん

講 評

SF的な世界観を強く感じることで作品なのですが、イメージだけで制作意図を全て汲み取ることは出来ませんでした。一枚の中で伝えたい内容が多すぎるので、内容を絞って本当に伝えたい一点に集中すると良いのではないかと思います。

人間のコミュニケーションの歴史は、対話>電話>インターネット>SNSと、近くから遠くまで伝わるようになって共に、同じ空間、時間を共有しない方向で広がってきています。

そのような中で、時間を共有しないとコミュニケーションを取ることのできない仮想空間は電話的で面白い視点になるのではないかと考えました。

